

大麦管理特報

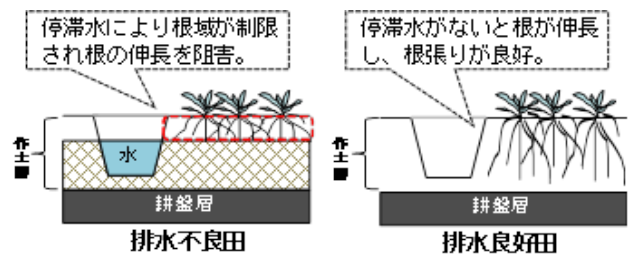
令和6年4月上旬
黒部市
黒部市農業技術会議
第4号

3月末現在の大麦の生育は、県生育観測ほ平均で平年並みとなっています。今後、気温が高めに推移した場合、平坦地では4月10日頃から穂が出始めると予想されます。

ほ場内やほ場ごとの生育のバラつきが大きいいため、赤かび病の2回防除を確実に行って下さい。

1 排水対策の徹底

隣接ほ場からの漏水や降雨などの水が停滞しないよう排水溝を手直しするとともに、水吐尻と確実に連結し、排水口を掘り下げ、湿害の発生を防止しましょう。



2 赤かび病防除の実施

赤かび病は出穂～出穂2週間後の期間が最も感染しやすいので、穂揃期とその7日後の2回防除を確実に実施しましょう。

剤型	1回目 (穂揃期：全体の9割程度が出穂)	2回目 (1回目の7日後)
液剤	トップジンMソル 100ml 1500倍 150L/10a	ワークアップフロアブル 75ml 2000倍液 150L/10a
ドローン 無人ヘリ	トップジンMソル 100ml 8倍 0.8L/10a	ワークアップフロアブル 50ml 16倍液 0.8L/10a
粉剤	トップジンM粉剤DL 4kg/10a	ワークアップ粉剤 DL 3kg/10a

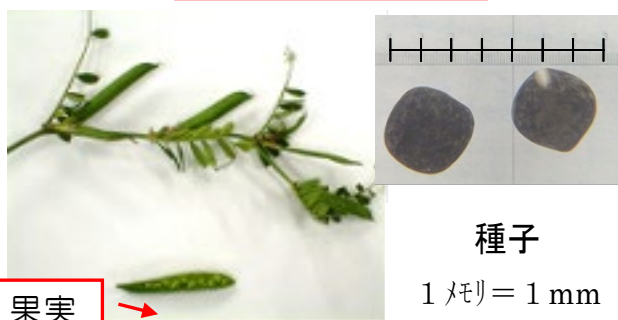
3 雑草種子の混入防止

カラスノエンドウやハマダイコンなどの種子が混入すると、収穫後の選別が困難なため、ほ場内で見かけたら速やかに抜き取りましょう。

また、畦畔周辺の草刈りや除草剤の散布などを行い、ほ場内への侵入を防ぎましょう。

カラスノエンドウ

ハマダイコン



果実

果実

種子

1 刈り = 1 mm